

したり情報を探らせたりする事は有利ではあるがよく嘘をつき、或は言葉が通じない爲に誤解を起す事が多い。又つまらぬ流言を信じ雷同し易いから絶えず其の動向に細心の注意を拂ふ事が必要である。

九、戰鬪

1. 長い船旅も暑い行軍も此の一戦の爲

上陸して敵にぶつかったら親の仇にめぐり合つたと思へ、長い苦し、船の旅や暑い劇しい行軍も唯此の敵を破る爲の道草であつた、鬱憤を晴らすのは此の敵だ、徹底的に殲滅しなければ腹の蟲が納まらぬ、特に緒戦が大切だ。

2. スコール（猛夕立）と霧と夜とは我等の味方

西洋人はハイカラで柔弱で臆病であるから雨と霧と夜の戦さは大嫌ひである、特に夜はダンスをするが戦さをするものとは考へて居らぬ、我等の乗す

べき機會は此れだ。

3. 酷熱下の戦闘動作

(イ) 汗が目に入る

射撃の際照準が難しくなるから鐵帽の下に鉢巻をして汗が眼に入らない様

吸ひ取る事が必要である。

(ロ) 太陽を背にして

太陽に向つて戦さをすると照準が難しいばかりでなく敵は我をよく見る事が出来が、出來るが我は敵を發見する事が出來ない。昔から名將は太陽を背に負つて

敵を攻めたものである、攻撃の時期と方向とはよく考へねばならぬ。

(ハ) 弾丸は遠く伸び、目標は近くに見ゆ

暑い時は寒い時より空氣が稀薄であるから弾丸が遠くに伸びる。太陽の光りが強く物の色がはつきりするから目標は近くに見誤り易い。射撃の際特に注意しなければならぬ。

(二) 兵器もいたばれ

火砲も内と外からの過熱で砲腔の膨脹、駐退及復坐機能の變化を起し易い。發射速度、射擊時間を適當に制限し點検、手入を十分にし又休む時は成るべく日陰に入れて可愛がつてやらねばならぬ。

4. 逃げる敵の止めを刺すには

退却する敵を捕捉する際には敵に先廻りして水源地、井戸、泉を押へる事は着眼すべき一つである。

5. 守る時には

資源を護り鐵道や港を守備する時は少い兵力で廣い地域を持たねばならぬから色々工夫して障礙物を造つたり、土人を懷柔使用したり、崖や密林や島地等の地障を利用したりして我は勞せずして敵を疲れさせ事を考へねばならぬ、又水の準備を十分にすると共に敵に水を得させない様に工夫し夜間 署

雨、等を特に注意警戒し敵をして成るべく炎天下遠距離より我を攻撃させる
様に着意する事が必要である。

一〇、瓦斯防護

1. 防毒面を勝手に離すな

今度の敵は支那兵と異つて瓦斯を使ふかもしけれぬ、苦しいからと言つて勝手に面を捨てるまさかの時に間に合はぬ。

2. 装面の行動時間

炎熱下静止時に於ける装面は連續一時間内外は容易であるが装面のままの行動又は戦闘は一時間以上は無理である。

完全防護の運動及作業は連續約十五分を限度としなければならぬ、之を超えると著しく体力を消耗するから恢復には特別の注意を拂はねばならぬ、装超

瓦斯防護

四五

CS

0346